

小豆島町民の皆様へ

私たちが内海ダム再開発事業に反対しているワケを 聞いていただけないでしょうか。

暑い毎日が続いていますが、皆様には御清祥のことと存じます。

私たちは内海ダム再開発事業（新内海ダム建設事業）に恐怖と疑問を持ち、事業中止を求めています。しかしながら香川県は私たちの仲間が所有している土地をこの事業に使うとして、土地収用法を適用して「11月22日までに明け渡せ」としました。私たちはそんなことは許せないで、断固闘います。

「小豆島町民の皆さんに私たちの気持ち・考えをご理解いただくことが、この事業を止めることに通じる」と考えます。皆さん、私たちの思い・考えに耳をお貸しください。

私たちが内海ダム再開発事業（新内海ダム建設事業）に反対する理由。

第1：新ダムは私たち流域住民の恐怖です。土石流がダム湖に流入にして大津波（イタリア）

私たちが居住しているところからわずか150mのところからダムが出来るとは、万が一のこと（ダムの崩壊やダム上流からの土石流がダム湖に流入にして大津波がダム堤を乗り越えて私たちを襲うことなど）を考えると不安でいたたまれないのです。ダム堰堤取り付け斜面を削っても岩盤はなかなか出てきませんでした。また、地盤の悪いところでは土石流がダム湖に流入することはよくあることです。

こんなところに今まで以上の水をためるダムを造るなどんでもないことです。

今一番の問題は**ダム建設残土を上流に野積み**していることです。地質の専門家、志岐常正京都大学名誉教授は「この大量の残土が土石流の源になるので撤去を」と指摘されています。私たちは早急に取り除くことを県に求めております。

志岐先生は専門の立場から新内海ダムの安全性に疑問を呈されています。「**安全性を確保するには大幅な事業費増になる**」と警鐘を鳴らされています。私たちは不安を解消するに十分な調査と、それに基づく対策を示していただくことを香川県に求めています。皆様にもご理解いただきたく思います。

第2：寒霞溪の景観が破壊されてしまいます。

私たちの宝である**寒霞溪の景観**が、山の上から見たときも、逆に海の方から見たときも巨大なダム堰堤によって壊れてしまうことです。この損失は観光立町を目指す私たちの町にとって致命的なことになるでしょう。守りついで来た寒霞溪をそのまま未来に引き継ぐのが私たちの役割とっております。

第3：新内海ダムは出来てもまったく役に立ちません。

「昭和51年の別当川の洪水被害が二度と起こることがないように」としています。

皆さんも良くご存知のようにあの洪水被害は西城川からの土石流と、片城川の土石流が引き起こしたもので、新内海ダムがあつたとしても逃れることは出来なかったでしょう。水源連は香川県の流量見積もりは大幅に過大であるとしています。志岐先生も**この地域に必要なのは洪水対策ではなく、西城川と片城川の土石流対策**、と言われていました。実際、**西城川と片城川の土石流対策はまだ不十分です。**

水道が水不足を起こすから、ということも理由に挙げられています。しかし皆さんがご承知のように、吉田ダムが完成してからは小豆島町が水不足のために生活に支障をきたしたことはありません。将来は水洗トイレや洗濯機など益々節水型の機器が普及するので一人当たりの水使用量は減少します。さらに人口は残念ながら減少の一途を辿るとされています。だから、水の使用量は減少するばかりです。簡易水道を統合しても、そのときの給水人口はH18年度のそれを越えないと町は予測しています。**水不足を起こすから、といって新内海ダムを作ってもそこにためた水が使われることはないでしょう。**

町水道課の資料では水道管からの**漏水など行方不明の水が15%程度**のようです。何と1年の間に約2か月分が地下に漏れていることとなります。この無駄をなくすことが先決です。

新内海ダム建設によって地下水が遮断され、下流部で使用している井戸水が使えなくなる恐れもあり

ます。簡易水道が統合されることでこれまで使用していた一部の水源が切り捨てられます。「地震災害時に頼る水源が身近にない」、これでは私たちの命が脅かされてしまいます。

第4：無駄なダムに私たちが大金負担を強いられます。

町のいう「水道事業者負担額は49百万円」には起債返済が含まれていません。

小豆島町民の最終総負担額は一人当たり4.5万円程度、4人家族で18万円程度

国の制度に基づいた私たちの試算結果です。

○ダム建設費用185億円のうち、利水分**8.8億円は水道事業者**（小豆島町）が負担します。国からその1/3が補助され、香川県が約1/3を負担するので、水道事業を運営する小豆島町の負担は残りの1/3です。**49百万円**は水道会計から支出、残りは起債としています。起債返済の半分は交付税で還元されるので小豆島町の実質負担は**約1.7億円**です。起債の返済は水道料金でまかなうのが普通ですが、小豆島町は町の税金でまかなうとしています。小豆島町の人口は1万6千人なので、**1人当たり負担額は1万円を超えます。4人家族なら、4万円をこえます。**

○ダムの建設費用の**治水176.1億円**は、国からの補助と交付税による返還があるので、県の負担額はその約1/4=47.5億円です。先の利水県負担分約3億円と合わせた約50億円が県民としての負担、香川県の人口は約100万人なので**一人当たりは5千円**の負担、残りは国民としての負担です。**一人当たり合計1万5千円（1万円+5千円）、4人家族の場合はおよそ6万円の負担**になります。

ダム事業は完成までに要する経費が当初予算の倍以上に膨れ上がるのが一般的です。新内海ダムの場合も地盤が悪いので安全確保のために建設費が膨れ上がるでしょう。さらに、ほとんどは起債という形の借金なので、利子返済がかさみ総返済額は少なく見ても借入額の1.5倍になります。

これらの要因を考慮すると、**小豆島町民の最終的総負担額は先に記した1万5千円の2倍×1.5倍=3倍程度で、一人当たり4.5万円程度、4人家族で18万円程度**になるでしょう。

第5：平地部の水浸しは高潮起因が多いのに、新内海ダムは高潮対策になりません。

新内海ダムを作っても台風時の**高潮被害防備には役に立ちません**。香川県は新内海ダムを作ると洪水時に川に流す水の量を少なくできるから、平地部の堤防を今以上に嵩上げる必要はない、としています。皆さんの記憶にも新しい2004年台風時は降雨が少なかったのに高潮被害が川伝いに広がりましたね。新内海ダムができてこの状況はまったく改善されません。平地部は上流からの洪水よりも高潮に備えることの方がはるかに必要と思います。

以上から、**無駄なダムに金をかけるのであれば、それを西城川と片城川の土石流対策と高潮対策、そして医療と福祉の充実に使う**方がはるかに小豆島町民のためになると私たちは考えます。

皆 様 へ の お 願 い

皆様、私たちのこの考えを理解いただくために、

- ◇ 私たちの声に耳をお貸してください。
- ◇ 出来れば、団結小屋をのぞいてください。
- ◇ そして皆様のご意見を団結小屋のノートに記してください。
- ◇ あるいは下記あてにFAXまたは郵送でお聞かせください。

どうぞよろしくお願い致します。

2010年9月

寒霞溪の自然を守る連合会

代表 山西克明

〒761-4433 香川県小豆郡小豆島町神懸通1689-2 電話・FAX 0879-82-4634

午前10時から12時までならば、団結小屋で下記の者が持ち回りで待機しております。是非お出かけください。

大橋良一、勝元 稔、佐伯幸男、中井清子、山西克明